

全日本選手権関西連盟選手権追加事項（ルール変更）

① 投手・・・4イニング以上捕手を務めた選手が投手になることを禁じる記述を追加しました。

(a) レギュラーシーズン・チームのどの選手も投手を務めることができる。

例外：1試合中に4イニング以上捕手を務めた選手は、その日は投手を務めてはならない。

② トナメント競技規則・・・12名以下の選手で試合に臨んだ場合、全員出場条件を厳しくする

9. 全員出場義務 変更がなされました。

トーナメントチームの試合時に、13名以上の選手が参加している場合はチーム名簿上の全ての選手が、守備において最低3つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。試合時に12名以下の選手しか参加していないチーム名簿上の全ての選手が、守備において最低6つの連続したアウトと、攻撃において少なくとも1打席は試合に参加しなければならない。

(この、変更に伴い12名以下の場合、ベンチの指導者（監督・コーチ）は2名の規定は撤廃します)

③ 当日試合に参加選手14名以外に3名の選手がボールボーイとしてベンチに入ることが出来る規定を

撤廃し、シートノックの補助としてのみ参加できる。シートノック終了後、速やかにグランドから退出すること。（グランドに入る補助の選手は区別できるようにすること）

2012年変更予定 I. 振り逃げの採用

★ 投手の規定について(特別規定)

1) 投手が1日及び1試合に投球できるのは 85球までとする

2) 投手が1試合に20球以内の投球をした場合は、次の試合に投手として出場出来る
(試合がダブルの場合は 次の試合は65球までとする)

3) 投手が21球以上85球までの投球数の場合は1試合開ければ当番は可能とする

4) 投手が打者と対戦中に投球制限に達した場合は、その打者の打席が完了するか、
または打席中に攻守交代になるまで続投出来る

5) 降板した投手は投手に戻れない

6) 試合で41球以上の投球を行った投手は、その日は捕手を務めてはならない

7) 故意四球（敬遠）は投球し、投球数に加算する

(2010年度全国選抜投手規定を参考)

☆ 投手規定以外は、通常の全日本選手権規定を採用する

◎第三ストライク時の落球（いわゆる振り逃げ）について

（1）振り逃げが発生する状況

走者 アウト	なし	1塁	2塁	3塁	1・2 塁	1・3 塁	2・3 塁	満塁
無死	○	×	○	○	×	×	○	×
1死	○	×	○	○	×	×	○	×
2死	○	○	○	○	○	○	○	○

（2）落球とは、「第三ストライクを宣告された投球を捕手が完全捕球をしていない」

ということを指す。

（3）完全捕球をしていない事例

①投球が捕手の手またはミットに触れたが、その投球を地面に落とした。

②投球がワンバウンドをして、捕手が捕球した。

③投球を初め、手またはミット以外の箇所に触れたが、その投球を地面に触れるまでに手またはミットで捕球した。

④投球が初め球審のマスク及び着衣に触れたが、その投球を地面に触れるまでに手またはミットで捕球した。

⑤投球が初め捕手の手またはミットに触れたが、弾いて打者に触れた。その投球を地面に落ちる前に捕手が手またはミットで捕球した。